

## まえがき

本書は、“よい”意思決定とは何か、という問いについて考えていく。私たちは日常生活において、“よい”意思決定をしたい、という欲求が非常に強い。例えば、ある日のランチのことを想像してほしい。知らないレストランに入って、そのランチがすごく美味しければ満足するし、逆に美味しくなければがっかりする。ランチではできるならば美味しいものを食べたい。ランチに美味しいものを食べられるか否かは、私たちがよい意思決定（どこのレストランに入るか、どのメニューにするか）ができたかで決まるのである。さらに、私たちの人生を大きく左右するような、「どこの大学を受験するか」、「どのような職業に就くか」、「誰と結婚するか」などの重要な意思決定であれば、「絶対よい意思決定をしたい」と思うのではないだろうか。私たちはどのようなときも、“よい”意思決定をしたいのである。

しかし、そもそも“よい”意思決定とは何であろうか。ランチの例を考えてみよう。お金に糸目をつけない状況であれば、単純に自分が食べたいものを食べられるところに行けばよいだろう。しかし予算が600円であれば、そもそも多くのレストランが選択肢から外れる。このような状況になると私たちはコストパフォーマンスを考え、「限られた600円の中で、可能な限り美味しいものを食べたい」となる。またさらには、「13:00までに会社に戻らないといけない」という状況だったとする。このような状況では「さっと食べられそうなレストラン」を探す必要がある。これらの例を見てもわかるように、“よい”意思決定の基準は一つには定まらない。状況

に応じて、「美味しいものを食べることができるレストラン」、「コストパフォーマンスのよいものを提供しているレストラン」、「さっと食べられるレストラン」といったように、異なる基準の中で選択肢の良し悪しが決まり、私たちはその基準の中で最良と思われるレストランを探す。

ランチで何を食べるかの決定など、私たちの日常生活では非常に些細な意思決定である。このような些細なものであっても、前述したように、意思決定にはさまざまな問題が絡み、その中で折り合いをつけながら私たちは意思決定を行っている。これが人生にとって重要な「どこの大学を受験するか」、「どのような職業に就くか」、「誰と結婚するか」、などの意思決定ではさらに複雑で、かつ深刻な要因が絡んでくる。ランチの時のように、「本当は700円のランチを食べたいけど、予算オーバーだから、600円のランチにしよう」などと、簡単に折り合いを付けられない場合もある。意思決定は本当に難しいのである。

本書では、意思決定科学と呼ばれる分野の研究を中心として、私たちが行っている判断や意思決定に関して紹介していく。意思決定科学において、最も議論が行われるトピックの一つが判断や意思決定の合理性である。合理的な判断や意思決定はよい判断・意思決定と考えられる。ランチの時、「よいレストラン」の基準が多く存在し、ある状況でベストの選択肢（レストラン）が、別の状況ではベストの選択肢ではないことが普通にありうることは明白である。これと同様に、合理性についてもさまざまな基準が存在し、意思決定科学では盛んに議論が行われている。本書では、異なる視点から合理性について考え、一見すると非合理的と考えられる判断や意思決定の背景にある合理的側面について紹介し、人間が行う判断や意思決定の“よさ”の特徴について説明を行う（第1章～第4章）。また、私たちの日常生活で、意識されにくい、“よろしくない”と

考えられる判断や意思決定バイアスを紹介する（第5章）。そして最後に，“よい”意思決定や判断を行うために，行われる介入方法について紹介する（第6章）。

本書では，「よい意思決定とは何か？」という問いに対する1つの明確な回答を提供することはできない。しかし，「どのようにしたらよい意思決定ができるようになるのか？」という点について，何らかの気づきを提供し，読者一人一人が最終的に，「私は…のようになればよい意思決定ができる」と，自信をもった意思決定ができるようになってもらえればと願っている。